

様式第7号(第6条関係)



平成24年 11月 6日

薩摩川内市議会
議長 川畑 善照 様
(会派代表者経由)

会 派 名 公明党
経理責任者氏名 中島 由美子



政務調査費に係る収支報告書

薩摩川内市議会政務調査費の交付に関する条例第8条の規定により、次のとおり、平成24年度の政務調査費に係る収支報告書を提出します。

- 1 収入
政務調査費 240,000円
- 2 支出

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
研 究 研 修 費		
調 査 旅 費	186,916	
資 料 作 成 費	9,689	
資 料 購 入 費	33,475	
広 報 費		
広 聴 費		
人 件 費		
事 務 所 費		
そ の 他 の 経 費		
合 計	230,080	

- 3 残余の額
9,920円

- 注1 備考欄には、主たる支出の内訳を記載すること。
2 領収書その他必要な書類を添付すること。

平成24年11月6日

薩摩川内市議会
議長 川畑 善照 様

会派名 公明党
代表者名 杉菌 道朗



政務調査活動報告書

平成24年度政務調査活動報告書を次のとおり提出します。

1 調査事業

- (1) 視察年月日
平成24年7月4日(水)～平成24年7月6日(金) 3日間
- (2) 視察先
東京都八丈町(八丈町役場及び八丈町病院)
- (3) 視察項目
ア 離島医療の現状と課題について
イ 離島観光について
- (4) 参加者
杉菌道朗議員、中島由美子議員
- (5) 視察概要
平成24年7月18日提出の視察報告書のとおり

政務調査視察報告書

平成24年7月18日

薩摩川内市議会
議長 川畑 善照 様

会派名 公明党
代表者名 杉菌 道朗



政務調査費による視察を実施したので、次のとおり報告します。

- 1 視察年月日
平成24年7月4日（水）～平成24年7月6日（金） 3日間
- 2 視察参加者
杉菌道朗議員、中島由美子議員の（2名）
- 3 視 察 先
東京都八丈町
- 4 視 察 目 的
 - (1) 離島医療の現状と課題について
 - (2) 離島観光について
- 5 視察の概要
 - (1) 離島医療の現状と課題について
離島における医療現場の最大の課題は医師及びスタッフの人材確保となっている。このことは全国の離島においても共通の課題となっている。いずれの地域においても早急な対策が求められているが医師不足の現状はなかなか改善されていない。離島の病院の勤務医は専門外の診療を行うこともあり、時間外の勤務も少なくない。また、緊急事態での本土内病院への転院搬送など関係各機関との連携も重要な点であると考えます。
 - (2) 町立八丈病院の現状について
八丈町においては、昭和41年5月に町立八丈病院を開設。当初は内科、外科及び産婦人科の3科37床であったが、昭和52年、50床に増床、その後昭和60年に52床に増床し、未熟児室2床を新設した。平成10年4月に新町立八丈病院を開設し、常設診療科として内科、外科、小児科及び産婦人科を設置した。また、臨時診療科として精神神経科、整形外科、耳鼻咽喉科、皮膚

科、内分泌内科、腎臓内科、糖尿病、循環器、消化器、神経内科、眼科、泌尿器科などの診療を行っている。

設備機器の中には全国に3基しかない再圧タンク室も設置され、ダイバー事故にも対応している。現在の職員配置は医師7名、看護師30名、薬剤師3名、診療放射線技師2名、臨床検査技師2名、事務4名となっている。八丈病院は離島病院であるか、施設、機器は充実しており本土内一般病院並みと感じたところである。東京都の様々な支援もあると考える。

(3) 八丈町の離島観光の取組と課題について

八丈島は東京から287キロメートルの太平洋上に位置し、その面積は69.52平方キロメートル、周囲58.91キロメートルのひょうたん型の島で、八丈富士と三原山の二つの山の上に八丈空港が位置している。気候は亜熱帯区に属し、年間200日は雨が降ると言われている。また、台風の常襲地帯でもあり、家々は防風林によって囲まれている。島内には熱帯性の植物が多く東洋のハワイとでも言うべき景観となっている。

八丈島は花と緑と温泉の島として様々な観光の取組を行っている。キーワードで表現すると、「探る」…散策トレッキング、「潜る」…ダイビング磯遊び、「釣る」…魚釣り、「温まる」…温泉、「食べる」…地元料理、「贈る」…特産品、「訪ねる」…歴史・文化、「触れる」…植物・いきもの、「知る」…自然エネルギー、「作る」…創作体験などである。

八丈島は甌島同様自然豊かな島であり、訪れた観光客は記憶にとどめることとを感じる。流人の島と一般的には思われているが、島の人たちはそのように言われることを好まない。極悪の罪人ではなく思想犯や文化人などが遠島流罪となったとのことであった。一時期のブームが去り現状の観光客の動向は必ずしも良い状況とは言えない。空路便、海路便共に減少傾向にあり来島者を増やす施策が必要と感じた。

離島観光における最大の課題は、海路にしろ、空路にしろ、交通手段が乱れることに尽きると考える。八丈島にはジェット機が就航しているが、気象条件によって、たびたび欠航している状況である。八丈島空港にはレーダー誘導設備がなく有視界飛行での離発着になっており、欠航率が高いというリスクがある。

今回の視察時も、島の上空に雲が発生し、飛行機が着陸できない状況となり、危うく帰路の日程変更をせざるを得ないことになりそうであった。フェリー便での帰路を覚悟したとき、雲が晴れようやく飛行機が着陸となった。

この体験を通じて、交通手段に変更が生じた場合の対応がいかにか大事か身を持って感じたところである。延泊をせざるを得ない状況が生じた場合、当事者に対する行政の支援など検討する必要があると感じた。観光にしろ、ビジネスにしろ、離島を訪れる人々に対するおもてなしの心は大切であり、リピーターを増やすための施策も打ち出すべきと考えた。